

年度 2009 学期 前期	曜日・校時 火・2	必修選択 必修	単位数 1
授業科目/(英語名)	総合英語 I (Comprehensive English I)		
対象年次 1年次	講義形態 演習	教室	
対象学生(クラス等)	Ld	科目分類	外国語科目(英語)
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 山崎有介/Eメールアドレス:pro-1223@ngs2.cncm.ne.jp/研究室:非常勤講師室/オフィスアワー:授業終了時			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 <p>授業のねらい: ネイティブスピーカーのみならずノンネイティブスピーカーにおける英語によるコミュニケーションを学ぶ。国際語としての英語は、世界各地でのコミュニケーションとしての言語であることはもちろんであるが、日本国内における外国人とのコミュニケーションをとるためのツールである。「私たちの言語」という意識で学んでほしい。</p> <p>授業方法: 毎回1章ずつ読み進めていくので、必ず予習すること。</p> <p>授業到達目標: 無理なく通常の英文が読め、聴覚力を養うことで、発音の向上を目指し、英語における表現力を豊かにしたい。TOEIC や英検などの資格試験のスキルアップにも役立てたい。</p>			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) <p>授業内容(概要) Before you read で本文の内容を推測し、本文にて Reading と Listening を通じ内容の把握をする。また、後半の Exercise にて Words to learn→Getting the main idea→Reading comprehension→True or false→Listening Comprehension→Think, write, and discuss!にて内容把握の確認を行う。</p> <p>第1回: オリエンテーション 第2回: Chapter 1 Multilingualism 第3回: Chapter 2 Issues in International Relations 第4回: Chapter 3 China and Japan 第5回: Chapter 4 Thailand and Japan 第6回: Chapter 5 City Children in Mongolia 第7回: 中間としてのまとめ 第8回: Chapter 6 Germany and Japan 第9回: Chapter 7 Overcoming Stereotypes 第10回: Chapter 8 Mass Media 第11回: Chapter 9 The Employment System of Japan 第12回: Chapter 10 Coping with World Refugee Problems 第13回: Chapter 11 Cross-cultural Engagement through Competitive Sports 第14回: Chapter 12 Diversity in the U.S. Labor Force 第15回: 全体のまとめ(定期試験を含む)</p>			
キーワード			
教科書・教材・参考書	<i>The Bridges of English Language Across the world: International & Multicultural Perspectives Book2</i> (松柏社)		
成績評価の方法・基準等	○定期試験 50%、中間試験 30%、小試験 10%、授業への姿勢(予習・発言・質問)10%		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			